

専門書を読むための読解指導について

加納 千恵子

要 旨

当センターでは1987年以降、国費研究留学生のための6ヶ月の集中日本語研修コースにおいて、コース開始から3-4ヶ月目ごろに「専門書を読むための読解練習」という教材を使った読解指導を行っている。本稿では、この教材の内容および使用法を検討しながら、初級日本語の学習を終えた非漢字系の学習者に専門書が読めるようになるための読解指導を行う際に出て来る問題点を整理し、読解に必要なスキルや読解指導のための効率的な教材および指導法のあり方を探る。

【キーワード】 専門日本語、読解指導、言語知識、非言語知識、読解スキル

1. はじめに

ここ数年来、日本語を学ぶ外国人の数の増加とともに、その学習動機、学習目的の多様化ということが問題になってきている。特に最近学習者人口が急増しているのは、以前のような日本語や日本文化そのものを学ぶことを目的にしている人々ではなく、経済、科学技術などの分野において研究活動を行うための手段として日本語を学習する人々である。そして、その方面の教材の不足や教授法の未開発などが指摘されるようになった。日本語や日本文化を学ぶことを目的にしている学習者のためには、どのような教材を使っても、またどのような方法で教えても、ある程度学習者の熱意や興味が、説明の足りない部分や非効率的な指導法の部分を補ってくれていた。しかし、ある目的的手段としてのみ日本語を学習する人々にとっては、そのような説明の足りなさや指導法の非効率性はけっして許されるものではない。彼等が日本語学習のために使える時間は極めて限られており、限られた時間内に効率的に日本語を学習できなければ、それを使って自分の専門分野での研究活動を行うという所期の目的を達成することはできないのである。そこでは、適切な教材、効率的な指導法が切実に求められている。

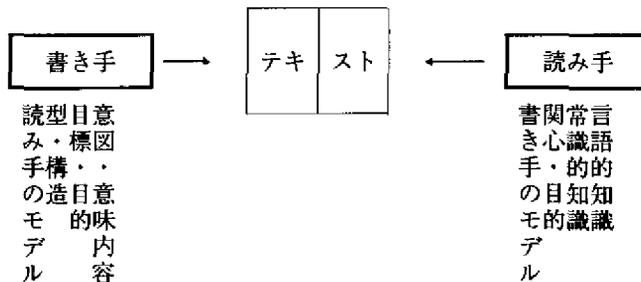
当センターで行っている国費留学生のための6ヶ月の集中日本語研修コースの目標は、大きくいって二つある。一つは、彼等が日本で生活するために必要な、一般的な日本語能力、主に日常会話や簡単な読み書きなどができるようにすることである。そしてもう一つは、日本で大学院生として、あるいは研究者としての活動を行っていくために必要な、ある程度専門的な日本語能力（主に、講義を聞いたり討論したりするための聴解力や発表力、専門書を読むための読解力など）である。本稿では、論を進める便宜上、前者を「一般日本語」、後者を「専門日本語」と、区別して呼ぶことにしたい。¹⁾ 実際には、日本語をゼロから始めた学習者の場合、6ヶ月で達成できるのは「一

般日本語」が精一杯であり、「専門日本語」の方はやっとその入口が見える程度のところで終わっているというのが現状である。特に、非漢字系の学習者の場合、読解力養成のためのハンディは大きい。しかし、その二つ目の目標こそを最も欲している学習者が増えていることも事実なのである。

本稿では、この「一般日本語」から「専門日本語」へと進む際の橋渡しの役割をねらった教材の一つとして『専門書を読むための読解練習』²⁾を取り上げ、教材として備えるべき内容、機能、そしてその指導法に関する考察を行ってみたい。「専門日本語」の具体的な分野としては、当センターの集中日本語研修コースの学生に多い専門分野であり、『専門書を読むための読解練習』で例文および読み教材に使われている、環境科学、教育、経済、農業化学、工学、医学、地球科学、生命科学などの分野一般について考えたい。それらの分野の専門書が読めるようにするための準備段階として、どのような読解教材、読解指導の方法があり得るかという可能性を探りながら、「一般日本語」（初級）の読解から「専門日本語」（中級）の読解へと進んで行く際に補っておくべき学習項目およびスキルを押さえておきたいと思う。また、『専門書を読むための読解練習』の問題点を検討し、今後の改善に向けての提言も行いたい。

2. 読解とは何か

まずここで、読解すなわち、読んでわかる、読んで理解する、とはどういうことかを考えてみたい。天満（1989）は、読解の過程を下のような書き手と読み手とのテキストをはさんだダイナミックな相互活動として図示している。³⁾



上の図で、テキストと読み手の間にある矢印が読み手からテキストの方向に向いているのは、読解行動が単に書き手の意図や意味内容を受動的に受け取るのではなく、むしろ読み手が自分の関心や目的に応じて、能動的にテキストに対処することだということを表している。であるから、一概に「読んでわかったかどうか」といっても、その理解のレベルは、読み手がどんなテキストを、どのような目的で読んでいたかによって変わってくる可能性があり、一様ではないといわなければなるまい。

ここで、ふつう一般に考えられる学習者（読み手）の理解のレベルを、指導する教師の観点から以下の(1)～(10)にまとめてみた。

- (1) 文中の語（句）の意味を聞けば、答えられるレベル
- (2) 文の構造や意味を聞けば、答えられるレベル
- (3) 文と文のつながり、文脈を問う質問に答えられるレベル
- (4) 文章全体の内容や主題を問う質問に答えられるレベル
- (5) 自分で文中の語（句）の意味がわかっていると正しく認識できるレベル
- (6) 自分で文の構造や意味がわかっていると正しく認識できるレベル
- (7) 自分で文と文のつながり、文脈などがわかっていると正しく認識できるレベル
- (8) 自分で文章全体の内容や主題がわかっていると正しく認識できるレベル
- (9) 自分の言葉で文章全体を要約したり一部再現したりできるレベル
- (10) 文章を自分の母語に訳すことができるレベル

実は上の(1)～(4)というのは、教師が想定した学習者（読み手）の理解レベルであって、教師の考える文章の書き手の意図・意味内容が読み手にわかっているかどうかをチェックするための質問に正しく答えられるかどうかで決められるものである。したがってこの基準によれば、読み手が頭では理解していても、質問に正しく答えられなければ、わかっていることにはならない。また、読み手が持っている関心や読む目的と、教師が与える質問とが合致していないために答えられない、という場合もあり得るだろう。つまり、教師の想定するレベル(1)～(4)に対して、読み手が自分の関心や目的、必要などに応じて想定する、次のようなレベルもあり得るはずである。

- (1)' 文中の語（句）の意味がわかるレベル
- (2)' 文の構造や意味がわかるレベル
- (3)' 文と文のつながり、文脈がわかるレベル
- (4)' 文章全体の内容や主題がわかるレベル

そして実は、(1)～(4)と(1)'～(4)')はさらに下位のレベルに分けられる。つまり、それぞれのレベルで、a.日本語で説明できる／わかる、b.母語で答えられる／わかる、c.選択肢を与えられれば選べる／だいたいのところはわかる、などに分かれるのである。これらのことは、教師が学習者（読み手）の理解をチェックしようとする際に、常に心得ておかねばならないことであろう。

さらに、上に述べた(1)'～(4)')と先述の(5)～(8)との違いは重要である。それは学習者自身のモニタリング能力に関わる問題だからである。Ellen Block (1986) は、Think-aloud protocols という手法による分析から、英文を読んでいる人がふつう使っている二つのタイプのストラテジーを報告している⁴⁾。一つは、テキストの意味を理解するためのストラテジーであり、もう一つは理解をモニターするためのストラテジーである。そして、上手な読み手と下手な読み手との違いは、上手な読み手は理解のモニターがうまいことであるといわれている。つまり、文を読みながら、わかっているとわかっていないところを自分で正しくモニターできる人というのが上手な読み手だと

いうわけである。言い替えれば、たとえ上の(1)～(4)のように、教師が与える質問にはなんとか答えられたとしても、自分で自信が持てない、わかったと確信できない、という場合は、モニタリングができていないことになる。また、読んでその時はわかったと思っても、後でそれが思い違いだったり、とんでもない誤解だったりすることもある。

また(9)(10)のレベルはそれ以下のレベルと明らかに分けて考えるべきであろう。(9)ができるためには、実は読解力に加えてかなりの発表力・表現力が必要であり、(10)は、そのまた上のレベルで、翻訳のスキルが必要とされるからである。

このように一概に「読解」といっても、さまざまなレベルが考えられるわけであるから、指導する際には、学習者がどのレベルにいますと考えられるか、指導目標をどのレベルにおくのか、を明確化する必要があろう。今までの読解指導は、ともすると(1)～(4)にのみ重点を置いてきたのではないだろうか。

さらに、実際の場面で何かを読む場合には、その目的に応じていくつかの異なった読み方が考えられるはずである。文章全体の流れや意味を大きくつかむために読むという読み方(スキミング)もあるし、ある特定の問題を解決するのに必要な情報を得るために読むという読み方(スキヤニング)もある。毎朝新聞に目を通すのは主に前者の読み方で、機械類の取扱解説書を読んだりするのは後者の読み方であるといえよう。しかし、同じ新聞でも、ある特定のデータを拾うために読む場合もあるし、論文を読むのでも、多読・速読が必要な場合と、精読が必要な場合とがある。それぞれの読み方で、果して同じスキルを使っているのかどうか、指導の方法はどうあるべきなのか、考えなければならない問題である。

そして、読み手の読解のプロセスを考える場合、二つの過程が考えられることも重要である。一つは、トップ・ダウンの過程であり、もう一つは、ボトム・アップの過程である。読み手は、かならずこれから読もうとするものについて、自分の持っている予備知識、専門知識などの非言語知識を使ってある予測をたてながら読んでいくものであり、その予測を上から下へと検証する形で理解していくものである。しかし、予備知識などが使えないことに関しては、一つ一つの言語単位(文字、語句、表現、文など)を解読して、その情報から全体の意味を組み上げていこうとする。現実の読解行動においては、そのようなトップ・ダウンの過程とボトム・アップの過程が必要に応じて互いに相補い合う形で進んでいくと考えられるのである。

このことは、いくら言語知識を十分に持っている読み手であっても、全然予備知識のない分野のものは読めない、読んでもわからない、ということからもはっきりしている。また反対に、いくら自分の専門分野の論文であっても、言語知識、言語的解読の技術が全く不足している場合は、当然読めないはずである。一般的にいうと、外国語学習の初級の時期において読み手は言語解析的になる傾向があり、ボトム・アップの過程に頼ろうとすることが多い。そして、より上級のレベルに進むにつれて、トップ・ダウンの過程をもうまく使えるようになるものだと言われているが、どちらの過程も、読解には不可欠なのである。

3. 読解指導の方法

まず、読解指導というのは、一般的にはどのようなやり方で行われているものであろうか。畠弘巳(1989)は、伝統的な読解教育に共通の手順として、以下のようなものをあげている。

1. 読み教材として短くてやさしい内容のものを選択する。
2. 教材と語彙リストを与え、予習させる。
3. 教師が範読する。
4. 学生に朗読させる。(簡単な発音のチェック)
5. センテンス毎、段落毎に内容についてやさしい日本語で説明して、学生に文章全体の内容を理解させる。
6. 同時に、むずかしい語彙、言いまわしなどが出てきたら逐時日本語で説明して学生の日本語に対する知識をできるだけ増やしてやる。
7. 学生が内容を正しく理解できたかどうかをチェックするために、内容についての質問をする。
8. 学生の理解が不十分な時はさらに内容について追加説明をする。
9. その教材に出てきた重要な語彙、漢字、言いまわし、構文の使い方を練習問題で定着させる。
10. 内容について話し合う。(会話の練習)
11. 感想、意見を書かせる。(作文の練習)
12. まとめとして学生に朗読させ、皆でその文章を味わう。
13. その教材に出てきた語彙、漢字、言いまわし、構文についてテストをする。

そして、たとえば1. と2. のような準備作業、10. 以降のような発展練習を除けば、読解教育の中心的部分は次の二つにまとめられるという。

- ①教材となっている文章をセンテンス毎あるいは段落毎に分けて音読し、その内容をやさしい日本語で説明して学習者に理解させる。(3.~8.)
- ②練習問題で学習内容を定着させる。(9.)

しかし学習者の側から見れば、上の①は主に聴解行動であり、②は語彙、漢字、文法の練習であって、読解行動ではない。学習者の読解行動は予習、復習の部分にしかないというのである。したがって、このような読解教育は「読解のない読解教育」であり、語彙、漢字、文法といった読むために必要な素材を教える「素材教育」にすぎないと、畠は批判している。したがって、読解指導で守られなければならない原則は二つあり、一つは読む練習が中心でなければならないこと、もう一つは

読む練習のための教材は何等かのメッセージを伝えようとしている文章でなければならないことである、というのが畠の主張である。

岡崎（1989）も、旧来の教室作業としての読解指導が「逐語読み」や「構文および語彙の積み上げを中心的課題とする読み」に片寄っていたと指摘し、より現実で要求される読みに近い形の読解指導、すなわち「目的・課題を持った読み」を行うべきであると主張している。そして、目的・課題遂行のために必要となる読みの技能（スキル）を養成するための指導をする必要があると述べている。岡崎のいう読みの技能（スキル）とは以下のようなものである。

1) 予備知識・言語知識の活用の技能

1. 予備知識・経験を活用しながら読む
2. 日本語についての言語知識およびコミュニケーションについての知識を活用しながら読む

2) 基本三技能

1. 特定の情報に頼らずに全体の流れを読む（スキミング）
2. 特定の情報を得るために読む（スキヤニング）
3. 予測および推測しながら読む

3) 複合技能

1) で、1.の予備知識・経験を活用しながら読むのは、トップ・ダウンの過程を支える読解スキルであり、2.の言語知識の活用は、ボトム・アップの過程を支える読解スキルである。また、2) の3.予測および推測には、トップ・ダウン型の予測、推測とボトム・アップ型の予測、推測の2つがあると考えられる。

さて「専門書を読むための読解練習」は、畠のいう「素材教育」と「読解教育」の折衷的な位置にある。各課が二つの部分に分かれており、前半の基本・応用練習は、読むために必要な文法（言語知識）を教えるためのものであり、後半の総合練習はむしろ細かな文法にとらわれず、読んでタスクを達成することに主眼をおくものとなっている。⁵⁾

岡崎のいう「読みの技能（スキル）」の養成という面からみると、前半では主に1)の2.のスキル、読むために活用すべき言語知識の積み上げを目指している。学生が自分の専門分野のものを読む場合には、1)の1.の予備知識・専門知識については特に教えなくても自然にそのようなトップ・ダウン型の過程を使っていると想定してのことである。また、この教材の使用時期がちょうど初級から中級への橋渡しの時期と重なっているため、初級文法でまだ出てきていない言語知識（漢字、語彙、文型・表現など）の導入をかなりの量しなければならないという事情や、書き言葉的な表現や「専門日本語」に特有の語彙なども数多くあるという事情で、どうしても言語知識の活用練習に指導の重点がいかにざるをえない。専門の読解のために具体的にどのような言語知識が必要とされている

るかという点については、次の4節で詳しく述べる。

しかし、後半の総合練習には、できるだけ2)の基本技能の養成を目指した読み練習を入れるつもりであった。特に、第8課の総合練習には、2)の3.の予測しながら読むというスキルの練習を取り入れてみた。ただし、全体を見渡してみると、まだ完全な「ブリタスク型」教材にはなっておらず、前半で扱った言語知識の確認や活用の方にひかれているものも多い。そもそも各課の前半と後半の狙いがかなり違ったものであったため、教材としてどっちつかずになってしまったという反省もある。実際の指導法に関しては5節で検討するが、読解スキルの養成は、専門日本語に入る以前の一般日本語の段階においても、一部もっと強化されているべきであろうと思われる。読解スキルの養成と言語知識の積み上げの両方を同時にやろうとすれば、どうしても学習者の負担が大きくなり焦点がぼける。しかし、言語知識の積み上げにはある一定期間が必要で、初級終了の時期まで待たざるをえないとすれば、読解スキルのうちでもっと早い時期から教えることが可能なものに関しては、早く始めるべきであろう。特にスキミングや予測、推測などの練習は、一般日本語の段階からでも可能なはずである。

4. 「専門日本語」の言語知識とその指導の問題

「専門日本語」を読むために活用すべき言語知識の養成を目指す教材を作るにあたって、「一般日本語」と「専門日本語」の違いとして⁶⁾、おもに次のような点があげられるのではないかという予想がたてられる。

- (1) 専門日本語の文は一般の日本語の文に比べて短い。
- (2) 専門日本語では、その分野に応じて出現頻度の高い語（専門語彙）が限られている。
- (3) 専門日本語では、出現頻度の高い文型がある程度特定できる。
- (4) 専門日本語は、論文、説明文、報告文という形式が多く、そこに述べられていることは、事実か意見（判断）かに大きく二分される。
- (5) 一般日本語では、文末に「～といえるのではないか」「～かもしれない」「～であることは否定できない」などのあいまいな表現が多くみられるが、専門日本語においては、一部の分野を除いて、比較的あいまい性が排除されている。

さらに読み方の問題を考えると、

- (6) 一般日本語を読む場合に比べて、専門日本語を読む場合には、読む目的、必要がはっきりしているのもので、読み手はトップ・ダウンの過程をより頻繁に使う。

つまり、専門分野に精通した読み手にとっては、一般の日本語の読み物より専門書の方が難度が低

く読みやすいということになり、上の(2)(3)に上げられているような出現頻度の高い語彙・文型さえ教えておけば、早い時期から専門書の読解が可能だという説が成り立ちそうである。ただし問題は、上の(2)(3)が各専門分野に応じてどの程度特定できるものか、また各分野同士でどの程度重なり合っているのか、といった研究がまだ十分でないことである。

また専門日本語のテキストといっても、実際には、最先端の論文なのか、雑誌のレビューなのか、実験レポートなのか、教科書なのか、などによって、文体や使われる表現など微妙に違っているはずであるが、ここでは、『専門書を読むための読解練習』に使われているテキストのみを材料に⁷⁾、専門日本語を読むために活用すべき言語知識の特徴について考察してみたい。

4-1. 語彙の問題

一般日本語の語彙と専門日本語の使用語彙との重なりとずれをみるために、『専門書を読むための読解練習』の各課に使われている語彙の使用頻度を調査した。動詞、形容詞、それに文末および文中に使われている接続表現や文型などについて、その使用頻度をまとめたものを[資料1][資料2]として、最後に載せておいたが、その中から専門日本語として頻度の高いものを抜き出したのが、以下の<表1>と<表3>である。これを慶応大学の研究報告(文献5)にある調査報告(形容詞については<表2>)と比べて、検討してみたい。

動詞については、まず一般動詞(初級の教科書で扱われるもの)と専門の動詞とに分け、さらに一般動詞の中でも初級の比較的前半で教えられるものと後半で教えられるものとに分けてみた。そして、それぞれの中で使用頻度の高かったもの上位20をまとめたのが、<表1>である。

<表1: 『専門書を読むための読解練習』における高頻度の動詞>

| | 一般動詞 | | 専門の動詞 |
|----|---------|---------|----------|
| | 初級前半 | 初級後半 | |
| 1 | なる (85) | いう (38) | 増加する (9) |
| 2 | ある (71) | 増える(29) | 変化する (8) |
| 3 | できる(32) | 考える(26) | 減速する (6) |
| 4 | する (30) | 思う (24) | 上昇する (6) |
| 5 | 行く (25) | 入れる(18) | 鈍化する (6) |
| 6 | 使う (23) | 知る (17) | 結合する (5) |
| 7 | 来る (19) | 始める(12) | 与える (4) |
| 8 | 持つ (17) | 行う (10) | 促す (4) |
| 9 | いる (15) | 加える(9) | 支える (4) |
| 10 | わかる(15) | 違う (9) | 生じる (4) |
| 11 | 読む (14) | 答える(7) | 探求する (4) |
| 12 | 住む (10) | なくす(7) | 失う (3) |
| 13 | 習う (10) | 示す (6) | 得る (3) |
| 14 | 見る (10) | すぎる(6) | 加速する (3) |
| 15 | 入る (9) | 減る (6) | 吸収する (3) |
| 16 | 働く (8) | 上がる(5) | 合成する (3) |
| 17 | 買う (8) | 受ける(5) | 異なる (3) |
| 18 | 通う (8) | 起こる(5) | 酸性化する(3) |
| 19 | 飲む (8) | 説明する(5) | 進む (3) |
| 20 | かかる(7) | 続く (5) | 高まる (3) |

()内は、使用度数。

初級前半で教えらるる動詞の中でも、「なる」「ある」「できる」「する」などは依然として使用頻度が高いが、以下の用例を見てみると、初級で使われていたときより、意味が抽象的になっていることがわかる。たとえば、「鉾山地区の家屋は、蚊に無防備な造りになっている。(環境科学)」、「温室効果ガスの増加と気温上昇の間にはどんな相関があるのだろうか。(環境科学)」、「mRNA に空いたところができると、そこへ次のリボソームが結合して合成を始める。(生物学)」、「所定の学力をもつと判定された論文提出者を対象とする。(教育)」などである。初級前半の動詞の中で第5位以下のものは、実はほとんどが各課のはじめの基本練習のところにある例文に使われているもので、これは専門日本語とは言い難い。

興味深いのは、初級後半で教えらるる動詞と専門の動詞に「増える」「減る」「上がる」「増加する」「変化する」「上昇する」など、状態変化を表す動詞が多いことである。また、「与える」「促す」「支える」「生じる」「失う」「得る」など、書き言葉でないと出現しない動詞があることに注意する必要がある。これらはけっしてある特定の分野にのみ現れる言葉ではなく、専門書に共通する言葉である。しかも、これらを知らなければ、文全体の意味の理解が困難になるので、当然この段階(初級から中級への橋渡しの時期)で学習すべき語彙であるといえよう。同様に考えられるものとして、「含む」「表す」「比べる」「限定する」「指す」「属する」「存在する」「不足する」「悪化する」「影響する」「及ぼす」(以下省略)などがある。

ここで一つの案としては、これらの、専門書に共通するとみなされる動詞群を「中間動詞」と呼び、ある特定分野にしか使用されないような特殊な動詞のみを「専門動詞」と呼んで、区別することである。そして、今後「専門書を読むための読解練習」では、このような中間動詞群を積極的に取り上げ、教えていく必要があるのではないかと考えている。

次に、形容詞(イ形容詞とナ形容詞を含む)について見てみよう。慶応大学の報告によれば、理工系の3分野(機械、化学、計測)に出現した形容詞は以下のようなものであったという。

<表2：慶応大学報告書における高頻度の形容詞>

| | 形容詞・形容動詞 | 出現数 | | | |
|----|----------|-----|----|-------|-----|
| | | | 11 | 著しい | 7 |
| | | | 12 | 明かな | 6 |
| | | | 13 | 等しい | 6 |
| | | | 14 | 最小な | 6 |
| | | | 15 | 広い | 5 |
| | | | 16 | 容易な | 5 |
| | | | 17 | さまざまな | 5 |
| | | | 18 | 完全な | 5 |
| | | | 19 | 簡便な | 4 |
| | | | 20 | 同一な | 4 |
| 1 | 大きい | 39 | 計 | | 208 |
| 2 | 良い | 25 | | | |
| 3 | 小さい | 24 | | | |
| 4 | 近い | 14 | | | |
| 5 | 悪い | 13 | | | |
| 6 | 同様な | 12 | | | |
| 7 | 同じ | 9 | | | |
| 8 | 良好な | 8 | | | |
| 9 | 多い | 8 | | | |
| 10 | 少ない | 7 | | | |

以下に、『専門書を読むための読解練習』に出てきた形容詞上位20を、先に提案した分類方法で表にまとめてみたものが<表3>である。

<表3：『専門書を読むための読解練習』における高頻度の形容詞>

| | 一般形容詞 | 中間形容詞 | 専門形容詞 |
|----|----------|---------|---------|
| 1 | 多い (33) | 必要 (4) | 酸化的 (5) |
| 2 | 大きい (16) | 明らか (3) | 還元的 (3) |
| 3 | 高い (15) | 適当 (3) | 国際的 (2) |
| 4 | いい (12) | 密接 (3) | 無防備 (2) |
| 5 | 少ない (12) | 急速 (2) | |
| 6 | 小さい (11) | 不必要 (2) | |
| 7 | 安い (9) | | |
| 8 | 同じ (8) | | |
| 9 | 難しい (8) | | |
| 10 | 大切 (6) | | |

()内は、使用度数。

慶応大学の報告にある形容詞の全出現数が208であるのに対して、『専門書を読むための読解練習』における形容詞の全使用度数は281であるから、上の<表2>と<表3>の数字を比べることは妥当であると思われるが、やはり使用頻度の高い一般形容詞はかなり共通しているといえる。慶応大学の報告にみられる「良好」「著しい」「等しい」「最小」「簡便」「同一」などは、先述の3分野に特徴的な語彙（専門形容詞）であるのかもしれない。

さて、名詞の分布については、今回は取り上げなかったが、動詞や形容詞よりも専門分野別のばらつきが大きいと予想されるものの、やはり「中間名詞」が存在する可能性がある。また、非漢字系の学習者にとっては、これらの「中間動詞」「中間形容詞」「中間名詞」などに使われる漢字を学習することも重大な問題となってくる。基本漢字の学習を終わって、専門分野別の漢字学習に入る前に、「中間漢字」を学習する必要があるのではないだろうか。今後、その調査も続けたいと思う。

4-2. 文型・表現の問題

慶応大学の報告書では、表現・文型を表現意図別に調査し、理工系の専門分野の論文内で高頻度の表現意図として、比較・対比・選択、原因・理由・根拠、構造・例示、定義・分類、仮定・条件、変化、手段・方法の7つに分類している。『専門書を読むための読解練習』の総合練習で取り上げた文章について、その表現の出現頻度を見てみたのが以下の表である。

<表4：「専門書を読むための読解練習」の総合練習に見られる表現>

| 表現意図 | 環境 | 生命 | 医学 | 生物 | 経済 | 環境 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| | L 1 | L 3 | L 4 | L 5 | L 6 | L 8 | |
| 1 比較・対比 | | 1 | | 2 | | | 3 |
| 2 原因・理由 | | 2 | | 2 | 2 | 4 | 10 |
| 3 構造・例示 | 2 | | | 2 | | | 4 |
| 4 定義・分類 | | 2 | 1 | | | | 3 |
| 5 仮定・条件 | | 2 | | 2 | 2 | | 6 |
| 6 変化 | 1 | 2 | | | 6 | 3 | 12 |
| 7 手段・方法 | 1 | 2 | | | | 2 | 5 |

慶応大学の報告書には各表現意図の出現頻度までは報告されていないので、さだかではないが、この総合練習で取り上げた文章は、比較的人文社会系のものが多かったため、理工系の論文とは多少分布が異なっている可能性もある。おおまかに言えることは、環境科学の文章では、事実を報告している文が多いのが特徴で、また「果してどのくらい～されてきたのであろうか。」「～について何がわかったのだろうか。」「～はどのように役立ってきたのだろうか。」といった、問題提起の文も多く見られた。医学の文章は非常に短かったため、データとしては不適當であろうが、やはり事実を報告する文が多い。生命科学、生物学の分野では、比較的どの表現意図も均等に現れている。経済では、変化の表現が多いのが特徴的である。全体として多く見られたのは、原因・理由と変化であり、比較・対比と定義・分類は少なかった。

次に、「専門書を読むための読解練習」全般において使用頻度の高い文法項目を調査した結果が<表5>である。言語知識として教える際の便宜を考え、助詞相当語、接続詞、文型、文末表現に分けてまとめた。

<表5：「専門書を読むための読解練習」における高頻度の文型・表現>

| | 助詞相当語 | 接続詞 | 文型 | 文末表現 |
|----|----------|----------|----------|------------------|
| 1 | によって(52) | ところが(19) | 受身 (84) | ～ダロウ/デアロウ (19) |
| 2 | に対して(30) | そして (17) | こと (78) | ～トオモウ/オモワレル (12) |
| 3 | について(21) | それから(15) | ～という(42) | ～ナケレバナラナイ (9) |
| 4 | として (18) | さらに (15) | もの (33) | ～ヨウダ (7) |
| 5 | において(12) | たとえば(13) | 可能 (22) | ～ノデハナイダロウカ (6) |
| 6 | に従って(12) | また (13) | 使役 (21) | ～テハイケナイ (5) |
| 7 | にとつて(10) | それで (11) | ～ので (15) | ～ナクテモイイ (3) |
| 8 | につれて(8) | つまり (10) | ～ば (14) | ～ソウダ 【伝聞】 (2) |
| 9 | とともに(7) | まず (10) | ～とき (14) | ～ラシイ (2) |
| 10 | に応じて(6) | または (10) | ～たら (13) | ～ハズダ (2) |

※文末表現の「～ダロウ/デアロウ」には、「～だろう、～であろう、～だろうと思う」などが含まれ、「～トオモウ/オモワレル」には、「～と思う、～と思われる、～と考えられる、～と見られる、～ように思われる」などが含まれている。また、「～ナケレバナラナイ」には、「～なければならない、～ねばなら

ない、～なくてはいけない」という形のバリエーションが使われ、「～ノデハナイダロウカ」は、「～ではないか、～ではないか、～ではないだろうか、～ではないだろうか、～ではなからうか」というバリエーションがある。

ふつう初級の日本語で扱われる助詞相当語は「について」や「にとって」ぐらいであるから、あとは中級への橋渡しの時期にしっかり学習しなければならない言語知識ということになる。

接続詞では、「そして」「それから」などは初級でも頻繁に出現するが、逆接の接続詞として「でも」「しかし」「けれども」などは知っていても、「ところが」は未習であることが多い。原因・理由の接続詞も「だから」「ですから」が多用され、「それで」「なぜなら」などは印象が薄くなっている。また、添加の「さらに」「また」「しかも」「そのうえ」や選択の「または」「あるいは」なども入っていない可能性がある。これらも過渡期の学習項目となるべき言語知識の中に入れられるだろう。

使用頻度の高い文型を見て、専門日本語に特徴的だと思われるのは、一般日本語に比べて受身や使役がかなり多く使われていることである。「こと」「もの」「ところ」などの形式名詞も多いが、それらは一般日本語の会話においても多く使われる。専門日本語に原因・理由の「～ので」や条件の「～ば」「～とき」「～たら」が多いのは、表現意図の分布からみても、当然のことであろう。

最後に、文末表現を見ると、慶応大学報告書の理工系の論文とは異なり、人文社会系の文章の特徴がよく現れているようにみえる。つまり「～ようだ」「～らしい」「～はずだ」などの推量、「～なければならない」「～てはいけない」「～なくてもいい」などの判断を表す表現が多いことである。理工系の日本語では、事実や判断を表す表現が明快で、あいまい性を排除しているといわれているが、人文社会系の分野のものが入ってくると、あいまいな文末表現も少しは知っておかなければならないことになる。

4-3. 指導の問題

さて、専門日本語の読解のために活用すべき言語知識について、以上のようにみてきたが、『専門書を読むための読解練習』での具体的な指導法について、考えてみたい。

まず語彙指導の問題である。語彙の中には、専門分野別に覚えなければならない「専門語彙」もあるが、その前の段階に覚えておく便利な「中間語彙」と呼べるようなものがあるのではないかと、いう立場にたって、1990年後期から先述の集中日本語研修コースにおいて、「中間語彙」のポキャブラリー・ビルディングの試みをしたので、ここで報告しておきたい。

実際には当コースの学生の専門は一人一人違っており、この教材を使って、文末表現、長文の構造、助詞相当語の用法、接続詞の用法、指示語の文脈指示などについて学習させていく上で、学生がどの語彙を覚えるべきか、どの語彙は忘れてしまってもよいか、という問題が従来から常に出されていた。学習すべき言語知識が多い上に、難しい新出語彙がかなりの負担になっていたのでは

る。その結果、過去においてはいま一つ語彙の定着が悪かった。本当なら、一人一人の学生の専門分野に合った例文や読み教材を使って指導できれば一番よいのだが、実際にはそうもいかない。

そこで、1課から4課の学習を終わったところで、復習用として、クラスの学生（7名）の各専門分野の語彙を使った問題プリントと「専門書を読むための漢字&単語をおぼえよう！」と題したポキャブラリー・ビルディングおよび辞書の使い方練習のプリントを作成した。「中間動詞」10と「中間名詞」25、合わせて35をピックアップし、①言葉の意味を辞書で引く、②「する」をつけて動詞として使えるかどうか調べる、③漢字で書いておぼえる、④それらを使って短文を作る、⑤未出の語彙の読み方を漢字辞典で引く、という手順で練習を行うものである。5課から8課の復習でも、同様のプリントを作成し、合わせて70語の中間語彙の定着を図るとともに、辞書を引くスピードを上げさせることをねらった。意外に見落とされがちなことであるが、辞書をすばやく引いて読むことができるというのは、中級に進む際に不可欠の能力である。

実は、「専門書を読むための読解練習」には、専門日本語に必要な言語知識としての文型・表現の用法説明が試みられているものの、それまで初級で一般日本語の言語知識として積み上げてきた文法説明との間にあまり関連がない（特に、文末表現の扱いや形式名詞、文構造などの説明など）という弱点がある。新しいことを習うのに、以前から持っている知識を使えないのでは効率的でないから、今後、一般日本語から専門日本語への言語知識・文法の説明に連続性を保つよう、改訂していかなければならないと思っている。

中間語彙に関しても、どのくらいの数を提示するのが必要最小限なのか、漢字の問題も含めて、その定着を促す指導法を工夫していかなければなるまい。

5. 非言語知識と読解スキルの指導の問題

読解のために活用するべき知識として、言語知識以外に、図表や写真などの非言語知識がある。当センターの集中日本語コースでは、「専門書を読むための読解練習」に入る前、初級のかなり早い時期から、読みタスクの形で図表やグラフの読み方を扱ってきているが、このような知識は読解を大いに助けるものである。専門日本語のテキストの中には、図表や式、写真などを見るだけで、ほとんどその内容が予測できてしまうものもあるから、そのような読み方を教えることは、読解スキル養成の上で非常に大切である。このような非言語的知識の活用力の強化は、読解の基本技能である予測・推測のスキル養成に役立つものであり、「専門書を読むための読解練習」にももっと取り入れたい。

また、専門分野に関する予備知識を活用させる読み練習をするためには、分野別の教材を数多く揃えることが必要である。「専門書を読むための読解練習」では、各課（2課と7課を除く）に最低2分野の読み教材をおくようにしているが、それでも学習者からはもっと自分の専門に近いものが読みたいという希望が出されている。真の「目的ある読み」を実現するためには、読み手にとって読む価値のある内容をもった教材が不可欠であり、学習者の専門や興味が一人一人違っている以

上、数多くの良質の読み教材を揃えることが急務である。タスクも、教師が設定して与える段階から、読み手が自分でタスクを設定する段階へと移行させていくべきであろう。同じテキストを読み手が別々の目的で読むことも実生活において大いにあり得ることなのである。

そして、漢字、語彙、文法などの言語的知識の部分が全部わかったとしても、文章全体の文脈がつかめないということがあるのが読解である。逐語読みをしていたのでは、時間ばかりかかって、全体が見えないということもある。初級の半ばすぎごろから、徐々に「語」の理解から「文構造」の理解へ、さらに「文構造」の理解から「文脈」の理解へと読み方を変えていく必要がある。

読むための基本技能としてあげられた三つのうち、最も早い時期から訓練が可能と思われるのは、スキミングのスキルであろう。ブリタスク型の読み練習の形で、一般日本語の初級のころから基本を指導しておけば、専門日本語に入ってさらに高度な情報検索へと進める。たとえば、ある歴史的記述の中から、年代を追って情報を拾い、年表を埋めさせるとか、調査報告記事の中から図表を完成させるための数値を読み取らせるとか、簡単な内容のうちから訓練させておく必要がある。現在『専門書を読むための読解練習』には、特にスキミングのスキル養成を目指した読み練習がないので、本当の読解の場面であり得るようなタスクの形で、ぜひ練習を入れたいところである。

速く文章全体の流れをつかむというスキミングのスキル養成に役立つものとしては、文脈に関する知識、たとえば接続詞や指示語の使い方や段落構成に関する知識などがある。しかし、これらはある程度論理性の高い説明文のようなものにしか多く現れないので、日本語学習のあまり早い段階で練習させることは不自然で難しいかもしれない。その意味では、まさに初級から中級への橋渡しの時期にこそ強化すべきスキルといえよう。

最後に、予測・推測の技能であるが、もちろんボトム・アップ式の予測・推測は初級段階から行っているはずであるから、専門日本語に入ってから、上に述べたような非言語知識からの予測・推測のようなトップ・ダウン式のものが主流になろう。これも、初級のうちからできる範囲で訓練しておくことが望ましい。たとえば、文中にわざと知らない言葉を入れ、他の語の意味や文脈からその言葉の意味を推測させるような練習は、一番手軽にできるものである。動詞の格のフレームを使って、動詞の意味から目的語の意味を推測させたり、反対に目的語の意味から動詞の意味を推測させたりすることもできる。省略された主語の復元や文中に等間隔にあげた穴を埋めさせるなど、いくつかのタスクが考えられる。文のタイトルや見出しからその内容を予測させたりする場合、初級では学習者の母語を使って予測・推測させてもよいと思う。初期の段階からできるタスクの形で、読解スキルを意識させていくことが大切であろう。

『専門書を読むための読解練習』の第8課に総合練習として、接続詞を手がかりに、そのあとに続く段落の内容を予測させるタスクを与えた読み練習がある。同時に「起承転結」という段落構成から、どのような文脈の流れになっているかをもみるようになっていく。狙いは、接続詞の用法および段落構成に関する知識を活用した、スキミングのスキルおよび予測・推測のスキルの養成であるが、実際には、今まで初級段階でそのような訓練をしてこなかったために、そこに使われている

語彙や文型を追っていだけで精一杯の学習者が多いのである。

さて、あるタスクを学習者に与える場合、それが良いタスクであるかどうかは、個々人のその時の実力、興味といった面でのレディネスによるところが大きい。実力以上のタスクを与えられても、練習になるどころか混乱を引き起こすだけの場合もある。教師は、あるテキストが適当かどうかをみるのに、言語知識的要素の難度のみを考慮する機会が多いが、それを読むための専門知識が足りているかどうか、読んでみたいかどうか、読解スキルが達成できているかどうか、といったことも事前にチェックできなければいけないと思う。

また、読んだ後で、何がわかったか、当初の目的（何のために読むか）を達成できたかどうか、をチェックすることも必要である。単なる内容確認の正誤問題や選択問題も、低いレベルの理解度をチェックするためには有効であるが、より高度な読み、現実の読みに近づくためには、読み手が自分で設定したタスクをどこまで達成できたか、自分の理解度を自分でモニタリングできているか、などの観点からチェックすることも重要である。

最後に、このような読解スキルというのは、学習者が本来母語でやっていることを意識化し、日本語を読む際にも応用できるということに気づかせる、といった性質のもので、言語知識の積み上げのようにゼロから教えていくものではないはずである。「読んでわかる」とはどういうことか、そのためのスキルはどのように養成できるのか、理論的にはまだ不明の点も多いが、指導の実践を通じて効果的な方法を追求していかなければなるまい。

6. 問題点と今後の課題

さて、専門日本語の読解指導のあり方として、原則としては島のいうように読解行動そのものを練習させる部分を中心でなければならないことはいうまでもないだろう。今までのような、表現や文法を教えるために読ませるような読解指導は、本来の「読む」という行為からはずれている。が、当センターで行っている「専門書を読むための読解練習」のように、専門日本語読解に入る前の段階、初級が終わって中級に進む橋渡しの段階で、専門書を読むためのスキル養成をしようという場合、専門書をそのまま与えるだけではまだ難しいことははっきりしている。つまり読解に必要な漢字、語彙、文法といった言語知識のまだ足りないところを強化することも、読解スキル養成に必要なのである。

そして、専門日本語を読むために必要な言語知識から全体を解説していくようなボトム・アップの方式を可能にすると同時に、トップ・ダウンの方式をも使えるようにすることが重要である。そのためには、初級段階から、一般日本語の読解スキルとして、スキミングやトップ・ダウンの方式を使った予測の立て方などを強化するようなブリタスク型の練習方法をできるかぎり実践しておかなければならないと思う。専門日本語に入る際に始めるのでは、遅すぎるのである。

ただし、言語知識そのものを教えることと、その活用の仕方、読解スキルの使い方を教えることをどのように両立させるか、あるいは同時に行うのではなく交互に強化するのがよいのかなどを

模索していくことが今後の課題となろう。現在の教材では、異なる達成目標が混在しており、どっちつかずになっている感が否めない。改訂作業は急務である。

ここで、今までに出てきた読解スキルと指導法をまとめてみよう。

| | 読 解 ス キ ル | 指 導 法 | |
|------------------|---------------|---------|---------|
| | | 初級段階 | 中間段階 |
| 知識の 活用の 技能 | 言語知識・談話知識の活用 | 基本語彙・文型 | 中間語彙・文型 |
| | 専門知識・非言語知識の活用 | 非言語知識 | 専門知識 |
| 読みの 基本 三技能 | 予測・推測 | ボトムアップ | トップダウン |
| | スキミング | タスク型練習 | 情報収集型練習 |
| | スキミング | | → 開始 |
| | 複 合 技 能 | | → 開始 |

表中の読解スキルは、下へ行くほど難度の高いものになるように並べ変えた。また実際には、表の「中間段階」の右側に「専門段階」というべきものがあるが、そこにおいては、個々の専門分野別の読解（真の読解）が始まるはずである。

最後に、いかに読み手にモニタリングの訓練をさせるか、というのも、今までの読解指導には見られなかっただけに、重要になってこよう。そのためには、本稿の2節であげた読解の際の理解レベルのうち、教師の尺度(1)～(4)と、読み手の尺度(1)'～(4)の両方を確立した上で、(5)～(8)のモニタリングのレベルをチェックできるような評価法を考案することが今後の課題であろう。立松(1990)は、上級学習者に対する読解指導の問題点として、学習者の理解度をどのように測定するかという問題をあげている。現在行われている方法としては、翻訳によるチェック、T-Oテストや選択問題によるチェック、教師との質疑応答によるチェックなどがあるが、いずれの方法にも読解力以外の要因が関与していたりして、問題が残る。有効な理解のレベルをチェックし、それに合わせた指導方策を与えるのが読解指導における教師の役割であるはずである。

以上の問題点を踏まえた上で、専門日本語の読解スキル指導のためには、分野別、レベル別に個別化された良質の教材を大量に準備することが必要である。また、学習者の目的、興味、実力に合わせて個別に指導する部分、学習者の自主的、自律的学習にまかせて指導する部分を拡大していくことが望ましいのではないだろうか。それにはコンピュータを利用した学習支援システム(CAI)が適していると思われるので、その方面の開発も待たれる。

注

- 1) 「一般日本語」「専門日本語」という言葉の厳密な定義をすることは難しく、日本語教育の分野ではまだそれほど使われていないが、他の外国語教育たとえば英語教育においては、ESP (English for Specific Purposes) というような形ですでに確立されている。
- 2) 本教材は、筑波大学留学生教育センターの読解研究グループが作成した読解練習用教材であり、途中二回の改訂を経て課の位置や内容が若干変わっているが、その内容と作成担当者は、以下の通りである。

| | 1987年度版→ | 1988年改訂版 |
|---------------------|----------|----------|
| 第1課 述語 | 加納 千恵子 | 加納 千恵子 |
| 第2課 長文分析-1- | 清水 百合 | 清水 百合 |
| 第3課 長文分析-2- | 清水 百合 | 清水 百合 |
| 第4課 助詞相当語- | 加納 千恵子 | 加納 千恵子 |
| 第5課 指示語 | 石井 恵理子 | 石井 恵理子 |
| 第6課 接続詞 | 竹中 弘子 | 竹中 弘子 |
| 第7課 文末表現 | 石井 恵理子 | 阿久津 智 |
| | → | 1990年改訂版 |
| 第1課 専門日本語の文章 (旧7課→) | | 小川 多恵子 |
| 第2課 助詞相当語-1- (旧4課→) | | フォード順子 |
| 第3課 助詞相当語-2- (新規作成) | | 清水 百合 |
| 第4課 文の構造-1- (旧1・2課) | | 藤牧 喜久子 |
| 第5課 文の構造-2- (旧3課→) | | 小宮 修太郎 |
| 第6課 指示語 (旧5課→) | | 阿久津 智 |
| 第7課 接続表現-1- (旧6課→) | | 加納 千恵子 |
| 第8課 接続表現-2- (新規作成) | | 加納 千恵子 |

- 3) 文献4のp.9を参照。
- 4) 文献7のp.465を参照。Think-Aloudというのは、読み手に読んでいる最中に考えたこと、頭に浮かんだことを全てその場で声に出して言わせるという方法である。その発言をテープレコーダーで記録し、それを分析することによって、読んでいる時にどのような理解のプロセスをとっているか、どのようなストラテジーが使われているか、などを解明しようとするものである。
- 5) 「専門書を読むための読解練習」の各課の構成は、次のようになっている。
前半：説明と練習 I. 基本練習 (初級程度のやさしい語彙を使った短文練習)
II. 応用練習 (専門の語彙を使った短文練習)
後半：総合練習 (専門分野の読み物にタスクがついたもの)

6) 文献5は、慶応大学理工学部と国際センターの共同研究による報告書で、機械（一般物理・力学）、計測（電気・情報・数学）、化学の3分野の論文の語彙・文型・表現などを調査したものであり、科学技術日本語の文章表現の特徴をまとめている。日本語教科書・教材4は、数学、情報科学、経済学、生物学、心理学、公衆衛生学、社会学、という7分野の専門書からの抜粋を扱っている。

7) 『専門書を読むための読解練習』の各課（第2課と第7課を除く）の総合練習にある文章の出典と専門分野は以下の通りである。

| | | |
|-----|-----------------------|---------|
| 第1課 | 雑誌【サイエンス】1988年10号より2篇 | 環境科学 |
| 第3課 | 「土の中の酸素」 | 農学 |
| | 「はく、ガンだったの？」R.W.ハッキング | 生命科学 |
| 第4課 | 「知恵蔵」朝日新聞社 | 人文社会学 |
| | 「人体の不思議」吉岡郁夫 | 医学 |
| 第5課 | 「タンパク質とアミノ酸」（出典不明） | 生物 |
| | 「植物と栄養」 | (♫) ♫ |
| | 「多細胞生物」 | (♫) ♫ |
| 第6課 | 「日本タテヨコ」より2篇 | 経済 |
| 第8課 | 「アマゾンのマラリア」朝日新聞1989年 | 環境科学 |

文 献

1. 石井恵理子（1988）「専門書読解の導入」『筑波大学留学生教育センター日本語論集』第3号
筑波大学留学生教育センター
2. 岡崎敏雄・中條和光（1989）「文章理解過程の研究に基づく読解指導」『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』広島大学教育学部留学生日本語教育・日本語教育学科
3. 立松幾久子（1990）「上級学習者に対する読解指導」『日本語教育』72号日本語教育学会
4. 天満美智子（1989）『英文読解のストラテジー』大修館書店
5. 橋本芳一・他（1989）『福沢基金共同研究 科学技術日本語教育のための調査研究報告書（63年度－最終）』
6. 畠弘巳（1989）「読解教育における文法の役割」『日本語学』第8巻第10号
7. Ellen Block（1986）“The Comprehension Strategies of Second Language Readers” in *TESOL Quarterly*, vol. 20, No. 3
8. Françoise Grellet（1981）“Developing Reading Skills” Cambridge University Press

日本語教科書・教材

1. 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子（1989）『BASIC KANJI BOOK 基本漢字500』
Vol.1・2 凡人社
2. 筑波大学留学生教育センター（1990）『専門書を読むための読解練習（試用版）』
3. 日本語能力試験研究会（1986）『日本語能力テスト問題集 読解編』凡人社
4. 山本一枝・田山のり子・坂本恵（1987）『読解練習 はじめての専門書』 凡人社

（本論文は、平成2年度科学研究費補助金による国際学術研究：課題番号02044020研究代表者大坪一夫、による助成に基づくものである。）

[資料 1] 『専門書を読むための読解練習』に出現する動詞

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1. なる | 12 | 1 | 6 | 7 | 11 | 6 | 19 | 23 | 85 |
| 2. ある | 9 | 5 | 3 | 17 | 7 | 10 | 8 | 12 | 71 |
| 3. いう | 13 | 2 | 3 | 2 | | 5 | 4 | 9 | 38 |
| 4. できる | 3 | 1 | 4 | | 4 | 2 | 6 | 12 | 32 |
| 5. する | 9 | 4 | 2 | 2 | 5 | | 2 | 6 | 30 |
| 6. 増える | 6 | 2 | 2 | | | 3 | 3 | 13 | 29 |
| 7. 考える | 10 | 1 | 2 | 10 | 2 | | 1 | | 26 |
| 8. 行く | 1 | 3 | | 7 | 3 | 2 | 6 | 3 | 25 |
| 9. 思う | 17 | 2 | | | | 2 | 3 | | 24 |
| 10. 使う | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 23 |
| 11. 来る | 4 | 1 | | 2 | | | 8 | 4 | 19 |
| 12. 入れる | | 1 | 5 | 2 | 3 | 1 | | 6 | 18 |
| 13. 知る | | 4 | 2 | 4 | | 3 | 3 | 1 | 17 |
| 13. 持つ | 1 | | | 6 | 2 | 1 | 3 | 4 | 17 |
| 15. いる | 3 | | | 1 | | 3 | 5 | 3 | 15 |
| 15. わかる | 4 | | 2 | | | 1 | 7 | 1 | 15 |
| 17. 読む | 5 | 2 | | 5 | | | 1 | 1 | 14 |
| 18. 始める | | | | 1 | 2 | 7 | | 2 | 12 |
| 19. 行う | 3 | 5 | | | | | 2 | | 10 |
| 19. 住む | 1 | | | 3 | | 2 | 3 | 1 | 10 |
| 19. 習う | 3 | 5 | | | | 2 | | | 10 |
| 19. 見る | 4 | | 1 | | 1 | 3 | | 1 | 10 |
| 23. 加える | | | 9 | | | | | | 9 |
| 23. 増加する | 1 | | 6 | 1 | | 1 | | | 9 |
| 23. 違う | 2 | 1 | 2 | 1 | | 2 | 1 | | 9 |
| 23. 入る | 4 | | | 2 | | 1 | | 2 | 9 |
| 23. 働く | | 2 | | 4 | | 1 | | 2 | 9 |
| 28. 買う | | | | 2 | | | 4 | 2 | 8 |
| 28. 通う | 8 | | | | | | | | 8 |
| 28. 飲む | | | | | | 1 | 4 | 3 | 8 |
| 28. 変化する | 2 | 1 | 4 | | | | | 1 | 8 |
| 32. かかる | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 32. 書く | 2 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 32. 答える | 3 | | | 2 | | | 2 | | 7 |
| 32. なくす | | | 1 | 4 | | | | 2 | 7 |
| 32. 話す | | 1 | | 2 | | | 2 | 2 | 7 |
| 32. 呼ぶ | 2 | | | 2 | 1 | | 2 | | 7 |
| 38. 聞く | 2 | 2 | | | | | 1 | 1 | 6 |
| 38. 減速する | 1 | | 5 | | | | | | 6 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 38. 示す | | | 1 | 2 | | | 1 | 2 | 6 |
| 38. 修飾する | | | | 6 | | | | | 6 |
| 38. 上昇する | 4 | | | | | 2 | | | 6 |
| 38. すぎる | 2 | | | 3 | | 1 | | | 6 |
| 38. 作る | | | 1 | | 4 | | 1 | | 6 |
| 38. つける | 1 | | | 4 | | | | 1 | 6 |
| 38. とる | 2 | | | | 1 | | | 3 | 6 |
| 38. 鈍化する | | | | | | 6 | | | 6 |
| 38. 減る | 1 | | 1 | | | | | | 6 |
| 38. 勉強する | 1 | | | | | | 3 | 2 | 6 |
| 50. 上がる | | 2 | 1 | | 1 | | | 1 | 5 |
| 50. 受ける | | | 1 | 1 | | 1 | | 2 | 5 |
| 50. 起こる | 1 | 1 | 2 | | | | | 1 | 5 |
| 50. 借りる | | | | 4 | | | 1 | | 5 |
| 50. 結合する | | | | | 4 | | 1 | | 5 |
| 50. 説明する | | | | 3 | | | 1 | 1 | 5 |
| 50. 続く | 2 | | | | | | | 3 | 5 |
| 50. 見える | 2 | | | | | 2 | 1 | | 5 |
| 50. 休む | | 2 | | | 1 | | 1 | 1 | 5 |
| 59. 会う | | | | 2 | | | 1 | 1 | 4 |
| 59. あげる | | | | 2 | | 1 | | 1 | 4 |
| 59. 与える | 2 | | | 2 | | | | | 4 |
| 59. 移る | | | | 4 | | | | | 4 |
| 59. 促す | | | | 2 | | | | 2 | 4 |
| 59. 帰る | | | | 1 | | | 1 | 2 | 4 |
| 59. 変わる | | | 3 | | | | | 1 | 4 |
| 59. 決まる | | 2 | 1 | 1 | | | | | 4 |
| 59. こわれる | | 2 | | | | 2 | | | 4 |
| 59. 支える | | | | 4 | | | | | 4 |
| 59. 調べる | 2 | 1 | | 1 | | | | | 4 |
| 59. 生じる | | | 2 | | | | 2 | | 4 |
| 59. 体験する | | | 4 | | | | | | 4 |
| 59. 探求する | | | | 4 | | | | | 4 |
| 59. 出る | | | 1 | | | | | 3 | 4 |
| 59. 寝る | 1 | | | | 1 | | | 2 | 4 |
| 75. 集まる | 1 | | | | | 1 | | 1 | 3 |
| 75. 集める | | | | 3 | | | | | 3 |
| 75. 失う | 3 | | | | | | | | 3 |
| 75. 売り出す | | | | 3 | | | | | 3 |
| 75. 得る | 1 | | | 1 | 1 | | | | 3 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 75. 起きる | 1 | | | | | | | 2 | 3 |
| 75. 教える | | | 1 | | | | 1 | 1 | 3 |
| 75. おぼえる | 1 | | | | | | 1 | 1 | 3 |
| 75. 終わる | 2 | | | | | | 1 | 1 | 3 |
| 75. 貸す | | | | | 3 | | | | 3 |
| 75. 加速する | 3 | | | | | | | | 3 |
| 75. 吸収する | 2 | | | | 1 | | | | 3 |
| 75. 結婚する | | | | 1 | | | 1 | 1 | 3 |
| 75. 合成する | | | | | 3 | | | | 3 |
| 75. 異なる | | | 3 | | | | | | 3 |
| 75. 酸性化する | 3 | | | | | | | | 3 |
| 75. 進む | 1 | 1 | | | | | | 1 | 3 |
| 75. 生活する | | | | 2 | | | 1 | | 3 |
| 75. 高まる | 2 | 1 | | | | | | | 3 |
| 75. 食べる | | 1 | | | | | 2 | | 3 |
| 75. 近づく | | | | | 3 | | | | 3 |
| 75. 調査する | 2 | | | | | 1 | | | 3 |
| 75. 流れる | | | | | | | | 3 | 3 |
| 75. 運ぶ | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| 75. 繁殖する | | | | | | | | 3 | 3 |
| 75. 含む | 1 | | | 1 | | | 1 | | 3 |
| 75. 増やす | 1 | 1 | | | | 1 | | | 3 |
| 75. 分解する | | | 1 | | 2 | | | | 3 |
| 75. 放出する | 3 | | | | | | | | 3 |
| 75. 待つ | | | | | | | 3 | | 3 |
| 75. 燃やす | 2 | | 1 | | | | | | 3 |
| 75. 結びつく | | 3 | | | | | | | 3 |
| 107. 開く | | 2 | | | | | | | 2 |
| 107. 遊ぶ | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 表す | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 歩く | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| 107. 移住する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 動く | | | | | | 2 | | | 2 |
| 107. うつす | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 映る | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 生まれる | | | 1 | | | 1 | | | 2 |
| 107. 売れる | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 上回る | | | | | | 2 | | | 2 |
| 107. 選ぶ | | 2 | | | | | | | 2 |
| 107. 開墾する | | | | | | | | 2 | 2 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 107. 開発する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 変える | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. 活動する | | | | | 2 | | | | 2 |
| 107. 枯れる | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 感染する | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| 107. 議論する | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 比べる | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| 107. 計算する | 1 | 1 | | | | | | | 2 |
| 107. 研究する | 1 | 1 | | | | | | | 2 |
| 107. 限定する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 合格する | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 克服する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 困る | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. さがす | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| 107. 下がる | | 1 | | | 1 | | | | 2 |
| 107. 指す | | | | | | 2 | | | 2 |
| 107. 死ぬ | | | 2 | | | | | | 2 |
| 107. 修了する | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 蒸発する | | | | | | | 2 | | 2 |
| 107. 吸う | | | | | 1 | | | 1 | 2 |
| 107. 進める | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 析出する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 増大する | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 属する | | | | | 2 | | | | 2 |
| 107. 存在する | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 107. 存続する | | | | | 1 | | | 1 | 2 |
| 107. 出す | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| 107. 付け加える | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. 続ける | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. つなぐ | 1 | | | | | | 1 | | 2 |
| 107. つなげる | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 強まる | | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| 107. 出会う | | | 2 | | | | | | 2 |
| 107. 低下する | | | | | | 2 | | | 2 |
| 107. 通す | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| 107. 通る | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| 107. 溶ける | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. 伴う | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. 直す | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. なおる | | | | | | | | 2 | 2 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 107. 並ぶ | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. のぼる | 1 | | | | | | | 1 | 2 |
| 107. 乗る | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. 排出する | 2 | | | | | | | | 2 |
| 107. はじまる | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 伐採する | | | | | | | | 2 | 2 |
| 107. ひく | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 107. 不足する | | | 2 | | | | | | 2 |
| 107. 分泌する | | | | 2 | | | | | 2 |
| 107. 減らす | 5 | | | | | | | | 2 |
| 107. 学ぶ | | 2 | | | | | | | 2 |
| 107. 役立つ | 1 | 1 | | | | | | | 2 |
| 107. 融合する | | | | | | | 2 | | 2 |
| 107. 連結する | | | | | 2 | | | | 2 |
| 174. 空く | | | | 1 | | | | | 1 |
| 175. 開ける | | | | | | | | 1 | 1 |
| 176. 遊ぶ | | | | | 1 | | | | 1 |
| 177. 悪化する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 178. 洗う | 1 | | | | | | | | 1 |
| 179. あらわす | | | | 1 | | | | | 1 |
| 180. 言いきる | 1 | | | | | | | | 1 |
| 181. 生きる | | | | | | | | 1 | 1 |
| 182. 急ぐ | | | | | 1 | | | | 1 |
| 183. 一致する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 184. 移転する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 185. 移動する | | | | | 1 | | | | 1 |
| 186. 引用する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 187. うける | | | | | 1 | | | | 1 |
| 188. 動く | | | | | | 1 | | | 1 |
| 189. 生み出す | | | | | | | 1 | | 1 |
| 190. 生む | | | 1 | | | | | | 1 |
| 191. 影響する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 192. 延期する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 193. おおう | | | | 1 | | | | | 1 |
| 194. 送る | | | | | | | 1 | | 1 |
| 195. 押す | | | | | | | | 1 | 1 |
| 196. 衰える | | | | | | 1 | | | 1 |
| 197. 驚く | | 1 | | | | | | | 1 |
| 198. おびやかす | | 1 | | | | | | | 1 |
| 199. 及ぼす | | | | | 1 | | | | 1 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 200. 降りる | | | | | | | 1 | | 1 |
| 201. 温暖化する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 202. かかわる | | | | 1 | | | | | 1 |
| 203. 欠く | | | | | | | | 1 | 1 |
| 204. 確認する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 205. 確立する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 206. がんばる | 1 | | | | | | | | 1 |
| 207. 消える | | | | | | 1 | | | 1 |
| 208. 帰国する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 209. 記入する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 210. 供給する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 211. 共同する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 212. 強化する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 213. 共存する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 214. 協力する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 215. 切り替える | | | | | | | | 1 | 1 |
| 216. 着る | | | | | | | 1 | | 1 |
| 217. 気をつける | | | | 1 | | | | | 1 |
| 218. 下る | | | | | | | | 1 | 1 |
| 219. 組み合わせ | | | | | | 1 | | | 1 |
| 220. 建設する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 221. 考察する | | 1 | | | | | | | 1 |
| 222. 合理化する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 223. 故障する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 224. ごろごろする | | | | | | | | 1 | 1 |
| 225. 栽培する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 226. 削減する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 227. 探す | | 1 | | | | | | | 1 |
| 228. 下げる | | | | | | | 1 | | 1 |
| 229. 察する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 230. 左右する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 231. 作用する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 232. さわる | | | | | | | | 1 | 1 |
| 233. 産卵する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 234. 従う | | | | | 1 | | | | 1 |
| 235. 質問する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 236. 実験する | | | | | 1 | | | | 1 |
| 237. 就職する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 238. 修理する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 239. 縮合する | | | | | 1 | | | | 1 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 240. 収縮する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 241. 主張する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 242. 進行する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 243. 信じる | 1 | | | | | | | | 1 |
| 244. 侵入する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 245. 進歩する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 246. すすむ | 1 | | | | | | | | 1 |
| 247. 成功する | | | | | | | 1 | | 1 |
| 248. 成長する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 249. 潜在する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 250. 即応する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 251. 測定する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 252. 育つ | | | | | | 1 | | | 1 |
| 253. 育てる | | | | | 1 | | | | 1 |
| 254. 卒業する | | | | | | | | 1 | 1 |
| 255. 代謝する | | | | | 1 | | | | 1 |
| 256. たくわえる | | | | | | 1 | | | 1 |
| 257. たす | | | | | | | 1 | | 1 |
| 258. たつ | 1 | | | | | | | | 1 |
| 259. 達成する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 260. 立てる | | 1 | | | | | | | 1 |
| 261. タブー視する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 262. たまる | | | | | | | | 1 | 1 |
| 263. 短縮する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 264. 注意する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 265. 貯蔵する | | | | | 1 | | | | 1 |
| 266. 疲れる | | | | | | | | 1 | 1 |
| 267. つく | | | | | | | | 1 | 1 |
| 268. 作り出す | 1 | | | | | | | | 1 |
| 269. つながる | | | | 1 | | | | | 1 |
| 270. 提供する | | | | | | 1 | | | 1 |
| 271. 停止する | 1 | | | | | | | | 1 |
| 272. 提唱する | | 1 | | | | | | | 1 |
| 273. 適応する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 274. 転換する | | | | 1 | | | | | 1 |
| 275. 登場する | | | 1 | | | | | | 1 |
| 276. 届ける | | | | | | | 1 | | 1 |
| 277. とどまる | | | | | | | | 1 | 1 |
| 278. 伴う | | | | 1 | | | | | 1 |
| 279. 流す | | | 1 | | | | | | 1 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 280. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 281. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 282. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 283. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 284. | | | | | | 1 | | | 1 |
| 285. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 286. | | | | 1 | | | | | 1 |
| 287. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 288. | | | | | | 1 | | | 1 |
| 289. | | | 1 | | | | | | 1 |
| 290. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 291. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 292. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 293. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 294. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 295. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 296. | | | 1 | | | | | | 1 |
| 297. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 298. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 299. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 300. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 301. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 302. | | | | 1 | | | | | 1 |
| 303. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 304. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 305. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 306. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 307. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 308. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 309. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 310. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 311. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 312. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 313. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 314. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 315. | | | 1 | | | | | | 1 |
| 316. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 317. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 318. | 1 | | | | | | | | 1 |
| 319. | | | | | | | | 1 | 1 |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 320. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 321. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 322. | | | | 1 | | | | | 1 |
| 323. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 324. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 325. | | | | | 1 | | | | 1 |
| 326. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 327. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 328. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 329. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 330. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 331. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 332. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 333. | | | | 1 | | | | | 1 |
| 334. | | | | | | | 1 | | 1 |
| 335. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 336. | | | | | | | | 1 | 1 |
| 337. | | 1 | | | | | | | 1 |
| 338. | | | | | 1 | | | | 1 |

[資料 2] 「専門書を読むための読解練習」に出現する形容詞

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 | |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---------|
| 1. 多い | 10 | 2 | | 9 | 1 | 1 | 4 | 6 | 33 | |
| 2. 大きい | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 3 | 6 | 1 | 16 | (大きな 2) |
| 3. 高い | 2 | | 3 | 1 | | 1 | 5 | 3 | 15 | |
| 4. いい | | 1 | | | | 5 | 2 | 4 | 12 | (よい 4) |
| 4. 少ない | 3 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 3 | 2 | 12 | |
| 6. 小さい | 3 | | | 3 | | | 4 | 1 | 11 | (小さな 1) |
| 7. 安い | 1 | | | | 1 | 2 | 4 | 1 | 9 | |
| 8. 同じ | 2 | | 1 | | 3 | | | 2 | 8 | |
| 8. 難しい | | 3 | | 3 | | | | 2 | 8 | |
| 10. 大切 | 1 | 2 | 2 | | | | | 2 | 6 | |
| 10. 有名 | | 1 | 1 | 3 | | | | 1 | 6 | |
| 12. 痛い | 2 | | | | | | 1 | 2 | 5 | |
| 12. いろいろ | | 2 | | | 1 | | | 2 | 5 | |
| 12. 酸化的 | | | 5 | | | | | | 5 | |
| 15. 赤い | 2 | | | | | 2 | | | 4 | |
| 15. 新しい | | 2 | | | | 1 | 1 | | 4 | |
| 15. 忙しい | 1 | | | 3 | | | | | 4 | |
| 15. おいしい | | 1 | | | 1 | | | 2 | 4 | |
| 15. 面白い | | 1 | | 2 | | | | 1 | 4 | |
| 15. 強い | | | 1 | | | | 1 | 2 | 4 | |
| 15. 遠い | | | | 3 | | | | 1 | 4 | |
| 15. 必要 | 3 | | | | | | | 1 | 4 | |
| 15. 広い | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | |
| 15. 便利 | | | | | | | | 4 | 4 | |
| 25. 明らか | 2 | | | | | | | 1 | 3 | |
| 25. 還元的 | | | 3 | | | | | | 3 | |
| 25. 上手 | | | 3 | | | | | | 3 | |
| 25. 適当 | | 1 | 2 | | | | | | 3 | |
| 25. 不便 | | | 3 | | | | | | 3 | |
| 25. 密接 | 3 | | | | | | | | 3 | |
| 25. 若い | | | | 1 | | 2 | | | 3 | |
| 32. 簡単 | 1 | | | | | | | 1 | 2 | |
| 32. きれい | 2 | | | | | | | | 2 | |
| 32. 急速 | | 2 | | | | | | | 2 | |
| 32. 苦しい | | | | | 1 | | | 1 | 2 | |
| 32. 国際的 | 2 | | | | | | | | 2 | |
| 32. 静か | | | | 2 | | | | | 2 | |
| 32. 自由 | | | | | | | | 2 | 2 | |
| 32. 白い | 1 | | | 1 | | | | | 2 | |

| | L1 | L2 | L3 | L4 | L5 | L6 | L7 | L8 | 計 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 32. せまい | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| 32. 正しい | | 2 | | | | | | | 2 |
| 32. 不必要 | 2 | | | | | | | | 2 |
| 32. 無防備 | | | | | | | | 2 | 2 |
| 32. 悪い | | | 1 | | | | | 1 | 2 |
| 45. 暖かい | 1 | | | | | | 1 | | 1 |
| 46. 暑い | | 1 | | | | | | | 1 |
| 47. あまい | | | | 1 | | | | | 1 |
| 48. 恐ろしい | | | | | | | | 1 | 1 |
| 49. 活発 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 50. かわいい | | | | 1 | | | | | 1 |
| 51. 完全 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 52. 黄色い | | | | 1 | | | | | 1 |
| 53. 貴重 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 54. 元気 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 55. 健康 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 56. 固定的 | | | | | | 1 | | | 1 |
| 57. さまざま | 1 | | | | | | | | 1 |
| 58. 寒い | | | | | | | | 1 | 1 |
| 59. 実質的 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 60. 重要 | 1 | | | | | | | | 1 |
| 61. じょうぶ | | | | | | | | 1 | 1 |
| 62. 正確 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 63. 精神的 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 64. つらい | | | 1 | | | | | | 1 |
| 65. 適切 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 66. 長い | | | | 1 | | | | | 1 |
| 67. にぎやか | | | | | | | | 1 | 1 |
| 68. 能動的 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 69. 幅広い | 1 | | | | | | | | 1 |
| 70. 低い | | 1 | | | | | | | 1 |
| 71. 古い | | | | 1 | | | | | 1 |
| 72. ほしい | | | | | | 1 | | | 1 |
| 73. めざましい | | 1 | | | | | | | 1 |
| 74. 猛烈 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 75. やさしい | | | | 1 | | | | | 1 |
| 76. 有効 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 77. 豊か | | | | | | 1 | | | 1 |
| 78. 弱い | | 1 | | | | | | | 1 |